

第8回 A-TS 17-03 安全と標準・認証研究会 議事録

1. 日時 2004年7月30日(金) 09.30 ~ 12.30
2. 場所 日本機械学会会議室(東京・信濃町 煉瓦館5階)
3. 出席者(順不同、敬称略)
杉本委員長(北九州市立大学)、坂(三菱総研)、斎藤(産業安全研究所)、田中(安全技術応用研究会)、木村(長岡技術科学大学)、染谷(長岡技術科学大学)、加部(シュメアザール)、篠原(東京工科大学)、中田(オープンシステム研究所)、柘平(テュフラインランド)、桑川(中災防)、梶原(ビューローベリタス)
4. 配布資料
 - SSC・研・8-01 安全性確保に係る法システムの横断的分析と再構築に関する研究
城山 英明(東京大学法学部助教授)
5. 議事
 - 5.1 経済産業省の動向について 杉本委員長
 - 機械安全に関して、過去の事故事例は、予見できなかったのどうか、NPO に調査依頼が来ている。
 - これまでの JIS/規格化だけでは、また、労働安全だけでは、安全は確保できない。責任と義務を盛り込まないと、だめである。
 - 5.2 愛知万博サービスロボット展示のための実行委員会の状況について 杉本委員長
 - この委員会の委員長に、杉本先生((北九州市立大学)が就任された。
 - ホームページ上で、情報公開し、やるべきことをやったと自信を持って言えるような活動を展開していきたい。
 - 5.3 講演「環境分野から見た安全」 青山 貞一氏(武蔵工業大学教授)
 - 私は、現在、3つの団体(長野県環境保全研究所・所長、環境総合研究所(株)、武蔵工大教授)に所属しているが、これまでに経験から、法律と技術がわかる者が必要である。
 - 環境問題は、社会問題である。
 - アセスメントの歴史は、
 - 1960年代 テクノロジーアセスメント、(米)OST / OTA
 - 1970年代 環境アセスメント、(米)NEPA、東京、川崎
 - 1990年代 リスクアセスメント、有害物質/環境ホルモン

- アセスメントの本質 : See before Leap
この意味は、予測と評価である。
- アセスメントの基本構成は、
 - 技術的構成 : 計画案 / 代替案
 - 行政手続的構成
 1. スコーピング(調査項目等の決定)
 2. 評価準備書作成
 3. 告示閲覧
 4. 意見書提出・説明会・公聴会
 5. 環境影響調査
 6. 評価書の作成
 7. 見解書の作成
- 保全対策 (Mitigation)には、次の3つの措置があるが、日本では影響緩和と影響代償の2つの措置が取られている。
 - 影響回避措置
 - 影響緩和措置
 - 影響代償措置

日本では、ほとんど固まった段階・実施計画でアセスメントが行われるが、アメリカでは、基本構想 / 計画の段階で、アセスメントが行われる。

- 環境アセスメントの基本構成は、
 - 合意形成 : 科学的知見、判断が基本ではあるが、合意とは、行政的判断と社会的判断から形成される。
 - 情報公開
 - 市民参加
- 評価手順としては、

必要性(日本は、ほとんどがこれの評価) → 技術の妥当性(日本はこの面が弱い) → 正当性
NPO/NGO と環境専門家が必要。 予防的・未然防止の考え方が日本は弱い。
- リスクアセスメント(日本の90年代)は、

リスクアセスメント - リスクマネジメント - リスクコミュニケーション
- アレルギー/化学物質のしきい値の考え方: 有(日本)、無(米)

5.4 講演「安全性確保に係る法システムの横断的分析と再構築に関する研究」

城山英明氏(東京大学助教授)

- 安全関係法制度に関して、被害者救済システムは、日本独特なもので、柔軟に対処している。一方、アメリカでは、国家賠償はない。
- 安全法制度設計手法の構築は、技術的社会的条件(専門家の存在形態、産業構造等)、法的手法の組合せ(刑事法、行政法等)、民間・市場組織の利用可能性(保険会社等)、日本的・法制度の評価、個別的設計例・情報提供に法律の根拠の要否、以上の面から検討しなければならない。
- 原子力の場合、事業者責任と言わなければ、例えば、立地申請しようとしても、信用されないし、事業を進めることができない。
- 安全規制の設定と運用に関して、規制の根拠となるデータは、10年くらいのレンジで評価すべきである。
- 責任追及と事故調査に関して、航空事故調査における日米の差異としては、報告書を法的責任へ流用できるかどうかにある。日本の特徴として、調査実施段階でのイニシアチブ・自律性が弱い(警察主導)、調査結果が法的責任の追及に流用され、事故原因調査が十分達成できないといった点が上げられる。

5.5 その他

- 1) 次回(第9回)研究会開催予定
日時 2004年10月 1日(金) 09:30~12:00
場所 日本機械学会会議室(東京・信濃町 煉瓦館5階)

- 2) 次回(第9回)研究会 話題提供 杉本委員長より(予定)

以上